

天敵製剤スワルスキーカブリダニを用いたナスのアザミウマ類防除

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

ナスのアザミウマ類に対して、天敵製剤スワルスキーカブリダニの防除効果が高いことを確認したので、その利用法を参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 夏秋雨よけ栽培のナスにおいて、アザミウマ類の防除には天敵製剤スワルスキーカブリダニが有効で、栽培期間をとおしてアザミウマ類の密度を抑制する（図1）。
 - a 放飼方法：スワルスキーカブリダニが入った容器を放飼直前にゆっくり回転させて均一に攪拌した後、緩衝材のふすまごと株元に落とす。
 - b 放飼時期：アザミウマ類が見え始めた発生のごく初期とする。または、開花期以降のアザミウマ類の発生前とする。
 - c 放飼量：10 a 当たり250ml（25,000頭、天敵製剤1本分）を1週間間隔で2回程度放飼する。
- 2) スワルスキーカブリダニは、放飼約3週間後から密度が増加し、その後、栽培期間をとおして圃場に定着する（図3）。
- 3) 本天敵製剤を放飼した圃場ではオンシツコナジラミの密度も低く推移する（図2）。

3 利活用の留意点

- 1) スワルスキーカブリダニ製剤（商品名：スワルスキー）は野菜類、豆類（種実）、いも類（いずれも施設栽培）のアザミウマ類、タバココナジラミ類に登録されており、ナスのほか、少なくともパプリカやキュウリのアザミウマ類に対しても、高い防除効果が得られる。
- 2) 本天敵製剤はオンシツコナジラミにはまだ登録はない（平成21年1月現在）。
- 3) 天敵放飼後は天敵に悪影響のある薬剤は散布しない（普及に移す技術、本号の「参考資料」参照）。
- 4) 本天敵製剤は250mlポリエチレン瓶1本に成虫25,000頭含有、価格は1本14,000円程度である。
- 5) 本製剤は新JAS法に適合し、農薬散布回数にカウントされないため、有機栽培・特別栽培農産物でも使用できる。

（問い合わせ先：農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話022-383-8123）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

農作物病虫害防除等の新農薬並びに新肥料資材効果確認試験 平成20年度

2) 参考データ

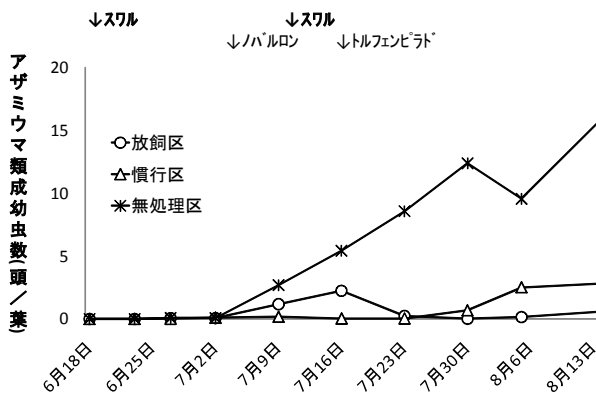


図1 アザミウマ類の発生推移(平成20年, 農園研内)

主な発生種はミカキイロアザミウマ

スワル: 放飼区におけるスワルスキーカブリダニの放飼

ハバルロン: 慣行区におけるカンター乳剤2000倍液の散布

トルフェンピラト: ハチハチ乳剤1000倍液の散布

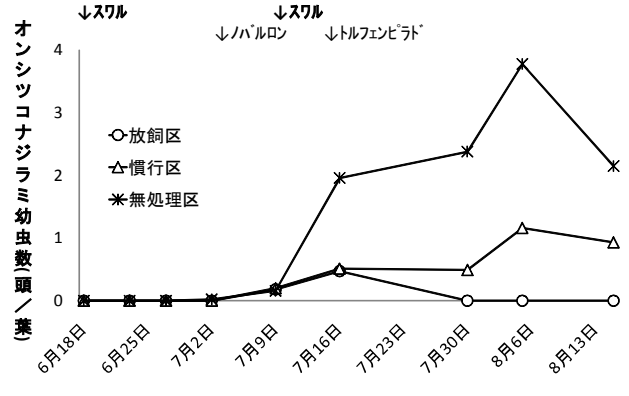


図2 オンシツコナジラミの発生推移(参考)

(平成20年, 農園研内)

*平成21年1月現在, オンシツコナジラミにはまだ登録がない。

*凡例は図1と同じ。

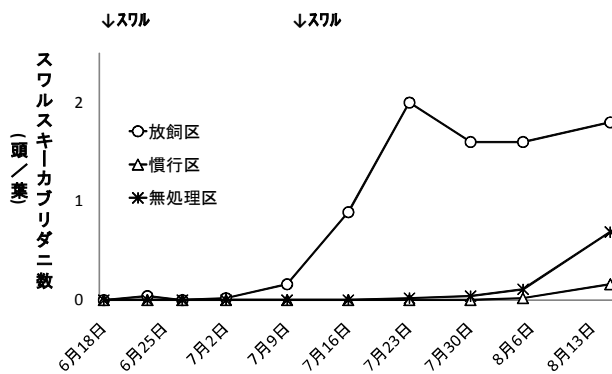


図3 スワルスキーカブリダニの発生推移(平成20年, 農園研内)

*凡例は図1と同じ。

3) 発表論文等 平成20年度 第53回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨